

平成 27 年度アドバイザー派遣事業実施レポート

○鳥取県中部地区小学校理科教育研究会

○研修テーマ

「お互いの考えを伝え、認め合いながら、ともに高まる児童の育成」
～筋道を立てて考え、進んで学び合い、
表現し合う子どもの育成を目指して～

○アドバイザー

岡山大学大学院教育学研究科理科教育講座

准教授 藤井 浩樹 先生

本年度、アドバイザー派遣事業において、岡山大学大学院教育学研究科理科教育講座准教授 藤井 浩樹 先生に下記の日程にてご指導いただいた。

12月9日（水）14時10分～16時45分

14時10分～15時30分 理科実験（倉吉市立社小学校 理科室）

15時30分～16時45分 理論研究（ ” 図書室）

「科学的に自然現象を観る目を育む理科の授業づくり」

平成29年度の中小研における理科の研究発表に向けて、まずは教職員が、理科に親しむ気持ちを持つために「おもしろ理科実験」と称して二つの理科実験をさせていただいた。教職員は大変興味深く実験を行い、理科教育の奥深さに改めて感じ入った次第である。

また、理論研修では、科学的に自然現象を観る目を育むために、課題を追求し続ける学習展開の工夫の必要性についてご指導いただいた。

始めに「おかしい、おもしろそうだ、不思議だ」等のおどろきを児童に持たせ、意欲付けを図る。次に、予想、実験、結果と続いていく学習展開の中で、スパイラルな探求行動をつくっていく。その結果、児童の中に「わかった、成功だ、おもしろかった」等



の喜びが生まれる。そして、更に次の課題へと進み、「課題を問いつける学習展開」を成立させていくことが理科の授業づくりにおいて必要であることを学ばせていただいた。

理科の授業に対して苦手意識を持つ教職員が少ない本校の実態を考えたとき、児童の気持ちになって実験の楽しさを体感すると共に、探求過程の

大切さをご指導いただいたことにより、今後の理科教育の研究への良いスタートが切れたと感じた。今後も、藤井先生のご指導のもと、更に理科教育の充実を図っていきたいと考える。

